

2. シンポジウム「暮らしと自然と文化的景観」

■ シンポジウムのプログラム

シンポジウムでは、招待講演として、ワシントン大学准教授の Kenneth Peter Yocom 氏、ボローニャ大学准教授の Valentina Orioli 氏、東京工業大学准教授の土肥真人氏の3名を招聘し、講演していただいた。また、それぞれを3つのセッションに分け、富山大学准教授の奥敬一氏、まるやま組の萩のゆき氏、OUIK の Juan Pastor Ivars 氏、金沢大学助教の丸谷耕太氏、金沢大学特任助教の Mammadova Aida 氏の計5名から研究発表を行っていただいた。最後には、同志社大学教授の佐々木雅幸氏に全体の総括を行っていただいた。全体のプログラムを以下に示し、以降講演の内容を紹介する。

【シンポジウム プログラム】

9:00 開場 (Symposium Registration)

9:30 開会挨拶・趣旨説明 (Opening Address) : 佐無田光

<Session 1> 自然の中の暮らしと景観 / Livelihoods and Landscapes in Nature

09:40 - 10:10 招待講演 1 (Guest Speech 1) : Kenneth Peter Yocom

10:10 - 10:30 研究発表 1 (Presentation 1) : 奥敬一

10:30 - 10:45 研究発表 2 (Presentation 3) : 萩のゆき

10:45 - 10:50 まとめ : Kenneth Peter Yocom

<Session 2> 暮らしの文化と景観 / The Culture and Landscapes of Livelihoods

11:00 - 11:30 招待講演 2 (Guest Speech 2) : Valentina Orioli

11:30 - 11:45 研究発表 3 (Presentation 4) : Juan Pastor Ivars

11:45 - 12:00 研究発表 4 (Presentation 5) : 丸谷耕太

12:00 - 12:05 まとめ : Valentina Orioli

<Session 3> 金沢・石川における自然と文化 / Nature and Culture in Kanazawa and

Ishikawa

13:15 - 13:30 研究発表 5 (Presentation 2) : Mammadova Aida

13:30 - 14:00 招待講演 3 (Guest Speech 3) : 土肥真人

14:00 - 14:05 まとめ : 土肥真人

<Discussions>

14:15 - 16:00 ディスカッション (Discussion)

16:00 - 16:15 総括 (Concluding Remarks) : 佐々木雅幸

16:15 閉会 (Closing Remarks) : 市原あかね

(敬称略)

■ シンポジウム講演内容

国際シンポジウム主催校挨拶

佐無田 光（金沢大学 教授）

本日は、国際シンポジウム「暮らしと自然と文化的景観」を開催する運びとなりましたこと、お集りの皆様方、そして関係者の皆様方に、心よりお礼を申し上げたいと存じます。貴重な時間と労力をかけて、遠方よりお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

とくに、はるばるアメリカのワシントン大学景観建築学部からお越しいただいたケネス・ピーター・ヨカム先生、イタリアのボローニャ大学建築学部の助教授でボローニャ市において都市計画の助役を勤めていらっしゃるバレンティナ・オリオリ先生、そして、東京工業大学環境・社会理工学院准教授でエコロジカル・デモクラシー財団代表理事の土肥真人先生には、会の趣旨にご理解・ご賛同いただき、大変感謝申し上げます。ようこそ金沢にお越しくださいました。3名の先生方には、それぞれ3つのセッションの基調報告となる招待公演をお願いしております。どうぞよろしく願いいたします。

また、各セッションでご報告をいただきます、富山大学の奥敬一先生、まるやま組の萩のゆき先生、国連大学サステイナビリティ研究所のファン・パストール・イヴァールス先生、金沢大学の丸谷耕太先生、同じく金沢大学のアイダ・ママードゥア先生、そして総括コメントをお願いしている同志社大学の佐々木雅幸先生におかれましても、本日はどうぞよろしく願いいたします。

丸谷先生にはシンポジウム全体の企画とコーディネーター役を引き受けていただいております。佐々木先生には、ボローニャ市とご仲介いただくなど、開催にあたり様々なサポートをいただきました。前日・前々日に行われた現地視察では、それぞれ関係者の方々から調整・コーディネート・ご説明をいただき、大変お世話になりました。ここにあらためてご協力にお礼を申し上げます。

金沢大学地域政策研究センターとともに、本シンポジウムの開催を共同して運営しておりますのは、国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット、一般財団法人・エコロジカル・デモクラシー財団、金沢大学能登里山里海研究部門（珠洲市）の皆さんです。関係者のご尽力に心より感謝いたします。

また、シンポジウムの開催にあたって、石川県、金沢市、および、認定NPO法人趣都金澤から後援していただいております。ご後援に感謝いたします。

さて、当シンポジウムの主催校である金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センターでは、地域再生に関する政策研究と国際比較を多角的な方面から進めています。センターでは、昨年度より、日本学術振興会学術システム研究センターの委託を受けて、人文的・地域研究の国際的な学術研究動向調査を行っています。昨年度は中国の広州市において「アジアの伝統工芸の継承と革新」と題する日中交流シンポジウムを実施しましたが、今年度はこれに引き続いて「文化的景観」に焦点を当てたシンポジウムを企画いたしました。

金沢大学では、地域創造学類に観光学・文化継承コース（仮称）を開設する予定です。地域への眼差しは、観光をはじめ、成熟社会のニーズとして深化しています。金沢大学もこうした現代的な社会のニーズに応えようとしているわけですが、なかでも「文化的景観」という概念は、近年、地域の魅力を構成する重要な資源の1つとして、国内外で注目を集め、世界的に新たな地域政策の対象になってきました。

しかしながら、この「文化的景観」という比較的新しい考え方は、景観という美的要素に加えて、生物多様性と文化多様性の重なる領域や、人の暮らしや生業の営みまでもが関わっていて、非常に複雑です。ハードな景観整備の手法とは異なり、「文化的景観」をどう守り発展させていけばよいかという、学術的・政策的な枠組みは、いまだ確立されていると言いがたいと思います。建築・都市計画的なアプローチに加えて、生態学、人文学、社会科学などの多面的な視点が必要になってきます。

今回は、このテーマの先進地であるイタリアの政策担当者やアメリカの景観建築の研究者をお招きし、地元の事例を交えて議論します。この石川という地域には、伝統と創造の文化の息づく金沢という都市や、世界農業遺産に指定された能登の里山里海などがあり、「文化的景観」を発信するのにふさわしい地域です。シンポジウム前の8月25日と26日には、関係者一同が能登と金沢の現場を視察いたしました。シンポジウムの後半では、これらの地域の素材を東京工業大学の大学院生が中心となって整理・報告してくれることになっています。おそらく、国際比較の視点と地域の実態を踏まえつつ、実りある議論が展開されるのではないかと期待しております。

共催する関係諸機関におきましては、それぞれ、自然と社会のつながり、生物文化多様性、里山里海、コミュニティ、景観政策、「金沢らしさ」などに関する議論の積み重ねが行われてきました。今回のテーマは、これらの議論とつながる課題です。このシンポジウムをきっかけに、地元の関係者と研究者の連携がいつそう深まり、当該テーマの議論を今後も継続していくためのプラットフォームの構築につなげていければと考えております。

本日のシンポジウムが、皆様方にとって実り多き知的交流となり、地域政策の発展につながる成果が得られることを願っております。簡単ではありますが、以上、開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

当シンポジウムの主催校である金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センターでは、地域再生に関する政策研究と国際比較を多角的な方面から進めています。センターでは、昨年度より、日本学術振興会学術システム研究センターの委託を受けて、人文学的地域研究の国際的な学術研究動向調査を行っています。今年度は「文化的景観」に焦点を当てたシンポジウムを企画いたしました。

金沢大学では、地域創造学類に「観光学・文化継承コース」を開設する予定です。地域への眼差しは、観光をはじめ、成熟社会のニーズとして深化しています。なかでも「文化的景観」という概念は、近年、地域の魅力を構成する重要な資源の1つとして、国内外で注目を集め、世界的に新たな地域政策の対象になってきました。

「文化的景観」という比較的新しい考え方は、景観という美的要素に加えて、生物多様性と文化多様性の重なる領域や、人の暮らしや生業の営みまでもが関わっていて、非常に複雑です。ハードな景観整備の手法とは異なり、「文化的景観」をどう守り発展させていけばよいかという、学術的・政策的な枠組みは、いまだ確立されているとは言い難いと思います。建築・都市計画的なアプローチに加えて、生態学、人文学、社会科学などの多面的な視点が必要になってきます。

今回は、このテーマの先進地であるイタリアの政策担当者やアメリカのランドスケープの研究者をお招きし、地元の事例を交えて議論します。この石川という地域には、伝統と創造の文化の息づく金沢という都市や、世界農業遺産に指定された能登の里山里海などがあり、「文化的景観」を発信するのにふさわしい地域です。国際比較の視点と地域の実態を踏まえつつ、実りある議論が展開されるのではないかと期待しております。

共催する関係諸機関におきましては、それぞれ、自然と社会のつながり、生物文化多様性、里山里海、コミュニティ、景観政策、「金沢らしさ」などに関する議論の積み重ねが行われてきました。このシンポジウムをきっかけに、地元の関係者と研究者の連携がいつそう深まり、当該テーマの議論を今後も継続していくためのプラットフォームの構築につなげていければと考えております。